

THE WAY WE WERE

追憶

Words by Alan & Marilyn Bergman / Music by Marvin Hamlisch

Copyright © 1973 by Colgems-EMI Music Inc.

Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

この曲は映画『追憶』の主題歌で、映画、主題歌とも大ヒットしたのは皆さん御存知のとおりです。美しい映像、特に渚を歩くシーン、そして最後の空港での別れのシーンは今でも鮮明に脳裏に焼きついていきます。主人公が様々な紆余曲折を経て、「女」として家庭的に生きるか、「人間」として社会的に生きるか、二捨択一の葛藤の中で心的成長をとげていくという課程に同性として痛い程共感しつつ、過ぎ去った時間というものは、いかなる場合でも甘く美しい脚色がなされるものなのだな、ということを実感せずにはいられない映画でした。

というところで演奏の方ですが、この曲は通常スロー・バラードで演奏されるのを、私は16ビートの横に揺れる感じの、リズムのあるミディアム・バラードにアレンジしてみました。例にあげると、コモドアーズ時代のライオネル・リッチーの「Sunday Morning」のようなノリだと思っていただければよいでしょう。

左手のベース・ラインが多少細かいですが、ルートの音にアクセントをつけて、ゆったり弾いて下さい。通常の構成はA[A]B[C]ですが、ここではA[A]Bで一応完結してAはアドリブ、という解釈にしました。イントロ1は3回繰り返しますが、テンポ・ルバートだし、気分て自由に弾きましょう。ただし、イン・テンポに入ったらさっと気持ちの転換をして、リズムをしっかりとキープして下さい。メロディを美しく歌うために、あるいは難しい和音を押さえるためにテンポが乱れたら、このアレンジは死んでしまいますので御注意を。Bは16分休符に気をつけて歯切れよく弾くのがポイントです。コーダ部分は最後の盛り上がりなので、メリハリをつけるために、アタマのところはおさめに、6小節目あたりからクレッシェンドして一気にいってしまってください。左手のルートのところはペダルを上手く使って、ドラマチックに弾きましょう。

(城田有子)

I 1 Tempo Rubato

B $\flat$ Δ 7 (onC) F Δ 7 B $\flat$ Δ 7 (onC) $\times 3$

I 2 $\text{♩} = 56 \sim 60$

in tempo F Δ 7 C7

A F Δ 7 Am7 B $\flat$ Δ 7 Dm7

B $\flat$ Δ 7 A7(b9) Dm7 B $\flat$ Δ 7 C7

1. F Δ 7 C7 2. F Δ 7

F7 **B** B $\flat$ Δ 7 Gm7

Am7 D7 Gm Δ 7

Gm7 C7 FΔ7 C7 to Φ

FΔ7 B♭Δ7 Dm7

B♭Δ7 A7(b9) Dm7 Dm7(onC)

B♭Δ7 C7(b9) FΔ7 F7 sus4 D.S.

Φ Coda FΔ7 Am7 B♭Δ7 Dm7 Dm7(onC)

B $\flat$ Δ 7 A7 Dm7 B $\flat$ Δ 7 A7

Dm7 Dm7(onC) B $\flat$ Δ 7 Am7 B $\flat$ Δ 7

Am7 B $\flat$ Δ 7 Am7 D7(b9) B $\flat$ Δ 7(onC)

F Δ 7 B $\flat$ Δ 7(onC) F Δ 7

B $\flat$ 7(onC) F Δ 7 F Δ 9

rit.

8va